

1 幼稚園の教育目標

教育目標 豊かな心とたくましい体を持った子

- ・子ども理解に努め、一人一人の発達特性や個に応じた指導をする。
- ・遊びをひろげ、深める環境を構成する。
- ・社会の変化や地域の要請に応え、保護者との連携を密にして保育を進める。
- ・小学校教育との結びつきを図るため、地域の小学校との連携を進める。

重点目標 思いやりのある子 がんばりのきく子 挨拶のできる子

- ・健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を送ろうとする態度を育てる。
- ・他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て人と関わり合う力を養う。
- ・自分の思いを言葉で表現しようしたり相手の話す言葉を聞こうとしたりする態度を育て、言葉に対する感覚や言葉による表現力を養う。
- ・感じたことや考えた事を様々な方法で表現する事により、豊かな感性や表現力を養う。
- ・周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ち、知ろうとしたりかかわりを深めたりしようとする態度を養う。
- ・教員が、一人一人の幼児との間に愛情と信頼の関係を築くとともに、幼児の心が開く接し方に心がけ、幼児の伸びようと姿を支えていく。

2 評価項目の達成及び取組状況（評価 A：十分達成されている B：達成されている C：取り組まれているが成果がやや足りない D：取り組みが不十分である）

(1) 指導領域の評価

評価の項目と主な観点	評価	評価の理由(成果や課題・改善策)	関係者評価
① 健康安全・体力の向上 ・朝の持久走や運動遊び等による体力や運動能力の向上 ・健康で安全な生活をしようとする態度や習慣 ・様々な食べ物に興味を持ち進んで食べようとする意欲	A	・体力の向上は、重点目標でもあり職員の意識も高いが、昨年度に比較し評価は4.1ポイント下がった。朝のマラソン体操の取り組みが、昨年度より少なかったと感じられたことが評価を下げた原因であると思われる。しかし、保護者の評価は97%と高評価であったことから、職員の評価が厳しかったと思われる。 ・給食指導では「給食カード」「年少での汁物クッキング」を実施したため、がんばって食べようとする園児が増えた。	A
② 人間関係・自立心 ・ものごとの善悪や決まりの大切さに気付いて行動する態度 ・友達の気持ちを大切にしようとする態度 ・人とかかわる楽しさを感じ、一緒にやろうとする態度	A	・昨年度とほぼ同じ評価であった。本園は様々な行事を通して子どもを育てていることが人間関係の向上や思いやりの心の育成に役立っている。とくに、運動会や発表会では、友だちと協力することの大切さを学ぶ場となっている。 ・運動会後のマーチング遊びなど縦割り活動を行うこと通して、小さな子どもを思いやる姿が多く見られた。	A
③ 言葉 ・自分の思いを言葉で伝えようとする態度と力 ・話を聞こうとする意欲や態度 ・読み聞かせを楽しむ	A	・昨年度に比較し3.8ポイント下がった。その大きな原因は英語への取り組みが低調であったことが大きいと考える。一昨年度より始まった英語活動であるが、行事に追われサイバードリムの時間が取れなかった。とくに学年が上がるにつれその傾向が強かった。保護者の意見でも英語の充実を望む声が多くあった。今後は、行事との兼ね合いや行事の精選、また何を優先するか検討していく必要もあると思われる。 ・先生たちの努力により、話を聞ける子どもが増えてきていることは評価されることである。	A

<p>④ 表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に興味や関心を持って取り組み心を動かされる姿 ・自分の思いを自分の方法で楽しみながら表現する喜び 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より 2.6ポイント下がったが依然として高評価である。職員は豊かに表現できる子ども達に手ごたえを感じていることがわかる。保護者も、発表会、絵画造形や表現遊びを通して、発達段階に応じて子ども達に自由に楽しんで表現させてくれることを高く評価していることがわかる。 ・絵画造形など園内研修を充実させることで改善を図っていきたい。 	A
<p>⑤ 環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内外の動植物に興味関心を持って接しようとする態度 ・野菜や花の成長を喜び、世話をしようとする態度 ・環境とかかわって遊んだり遊びをつなげたりする態度 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より 2.3ポイント下がった。しかし、市街地という限られた環境を工夫しながら保育を進めていることがわかる一年であった。 ・畑での野菜栽培は園外にあるため、なかなか観察することができなかった。それを補うために、プランターでの栽培をして、子どもに興味関心を持たせるよう工夫した。また、寄せ植えなどの工夫をした。園外保育と関係させ、野菜栽培の途中経過を観察することも検討していきたい。 ・学園内にある森に出かけ、鳥、草花、ドングリなどを発見するなど興味を持たせることができた。 	B

(2) 園の重点目標や活動についての評価

<p>1 がんばりのきく子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難なことがあっても最後までやり遂げようとする姿 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より 4.8ポイント下がった。原因としては、朝のマラソンにおいて走ることを嫌い、歩いてしまう子どもが多くなってきたことがあげられる。また、やる前から「できない」とあきらめてしまう子どもが少しずつ増えてきていると感じている先生もいる。 ・栗ちゃん先生による運動遊びが定着し、難しいことに挑戦させたりしているので今後も期待したいが、それに頼りきりになるのではなく保育者の力量も向上しなければならない。 ・卒園するまでに「逆上がり」「跳び箱」「縄跳び〇回」など目標を持たせて挑戦させることも考えていきたい。 ・給食がんばりカードなどの効果も大きいので、他の活動にも応用できないか検討していきたい。 	A
<p>2 思いやりのある子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のことを気遣い友達の気持ちを考えて行動する姿 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児&満3歳児保育に取り組み始めて3年が経過したが、小さな子に対して優しくする姿が多く見られるようになってきている。 ・運動会で行うマーチングやバルーンを下級生に教える(一緒に遊ぶ)ことを行っているが、優しく教えてあげようとする光景が見られる。思いやりは良質な人間関係を築く基礎ともなるものであるので、今後も心の教育を継続していきたい。 ・優しい子ども達が多くなっていることを保護者も大変評価している。 	A
<p>3 あいさつのできる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から挨拶したり挨拶されたら挨拶を返したりする姿 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声であいさつのできる子どもはだいぶ増えてきている。しかし、やはりできないできないは個人差が大きい。ののさま、始業式など全体でのあいさつは大変よくできるようになっているので個人のレベルまで改善したい。 ・保育者があいさつの大切さを教えていくことがたいせつであるし、保護者の協力も不可欠である。今後も家庭と連携しながら指導を進めていくことが大切である。 	A

		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の評価は昨年度より上がっている。 	
<p>4 行事の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事での園児の姿、行事の計画・運営等の評価 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より 1.3 ポイント上がった。 ・先生たちは、様々な行事を通して子ども達をどう成長させるか意識しながら保育を進めていることが記述をみてもわかる。そのため大きく成長しているのを実感できたと思われる。とくに、運動会、発表会では手ごたえ実感していることがわかる。 ・保護者の感想からも、行事を通してわが子が成長している実感を感じていることがわかる。 	A
<p>5 個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の理解に努めそれに応じた指導ができたか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な子どもの情報は全体会などできめ細かく報告されている。そのため、職員間での情報共有がなされ、全職員で一人一人の子どもに対応することができている。 ・支援を要する子どもが増加している現状を考慮し、今後も特別支援教育の研修をしていく必要がある。 ・保護者からは 95 ポイントという高い評価を得たことは、「わが子を大切にしてもらっている」という実感の表れと思われる。 	A
<p>6 地域の施設や人材、自然を生かした指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域理解に努め地域を生かす指導ができたか 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より 6.7 ポイント下がった。他県における園外保育での事故のニュースも影響し、外に出ることに二の足を踏んでしまったため、園外保育が激減してしまったことが大きな原因である。 ・園外保育の不足を反省する先生の声が多く、保護者からも園外散歩や園外活動を望む声が多かったことを考え、危機管理をしっかりと年間計画に位置付けすることも考えていきたい。 ・保護者からは限られた環境の中で工夫した保育をしていることに高く評価されている。 	C
<p>7 保護者への対応や連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への連絡や対応、連携が適切であったか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・どの先生も欠席やケガ、友だちとの関係など心配になることはできる限り丁寧に保護者に連絡している。そのような丁寧で細やかな対応が保護者からも評価された。 ・保護者からは、各たよりを通して「子どもの様子」「保育の内容」「予定や情報」などを知らせてほしいと要望が寄せられているので検討していきたい。 ・若手職員が増えてきているので、保護者対応の研修も考えていく必要があると思われる。 	A
<p>8 園内研究や研修の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導力や保護者への対応力向上等の研修ができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より 3.4 ポイント上がった。 ・各学年に若手教師がいるため、学年研修を中心に進めることができた。また、教育実習生も例年以上多くいたため、研修の機会も持てた。 ・南ブロック研修には若手4人を参加させ、保育力の向上を図った。 ・夏の県私幼振興協会主催研修及び初任者研修には積極的に参加できた。今後は研修した内容の伝達・共有を図っていきたい。 	B
<p>9 校務分掌の適切さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事量と人数が適切で効果的な分掌となっていたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年より 5.7 ポイント上がった。その要因は、一人の仕事を全員で補完し合うよう協力しながらできたことが大きいと感じる。しかし、行事は減らない中で、無償化、2歳児&満3歳児保育、預かり保育の手伝いなど年々仕事量は増加しているため、担当は早めの提案に心掛け、職員全員で取り組むように心掛 	B

		けていきたい。 ・主任会、全体会、分掌部会を充実させていきたい。	
10 魅力ある園づくり ・就園先として選択される園づくり	A	・昨年度より6ポイント上がった。本年度は笑顔あふれる幼稚園（Smile Smile Smile）を合言葉に保育を進めてきたこと浸透できたことが大きい。見学に来た保護者からも職員の笑顔や明るい対応が入園の決め手であったとの感想を得ており、職員もそれを実感できた一年であった。 ・ひよこ（2歳&満3歳保育）、運動（げんきっこ）、英語、運動会（マーチング）、発表会、課外保育、預かり保育が充実し、選ばれる幼稚園ができつつある。 ・本年度は課外保育に新たにサッカー教室を取り入れたことにより、サッカー、げんきっこ、英語、ピアノと4つを選択できるようになった。	A

4 評価の具体的な目標や評価の総合的な評価結果（太字が評価委員からの意見）

評価	理由
A	<p>これまで教職員評価は副園長、担任、預かり担当、事務の回答をまとめたものであったが、本年度は担任補助の評価も加えた。補助から見た子どもの姿や保育を評価することになった。</p> <p>○教職員の評価は昨年度より全体的に下がった傾向にあるが、保護者の評価は全体的に向上している。これは、教職員はより厳しい自己評価をしているものと考えられる。保護者の評価の高さは、入園希望者や見学者が増加したことからも伺える。</p> <p>○本年度は「笑顔あふれる幼稚園」を目指して Smile Smile Smile を合言葉に保育を進めてきた。職員に「笑顔」が浸透した1年であった。見学に来た保護者が職員の笑顔が入園の決めた理由だと話してくれたことで、職員は自信を深めた。評価委員（保護者）より、先生方は笑顔で相談ののってくれる。また、他園の保護者と話していても順心幼稚園の先生が笑顔で接してくれていることがわかると評価された。他の評価委員からは、笑顔という実践を全職員で共通実践し、それを積み重ねて本物としてほしいと激励された。</p> <p>○「がんばりのきく子」については、保育者が日常保育や運動会・発表会などの行事を通して、意図的に子どもに少しずつ負荷を与えながら挑戦させたり、やり抜かせたりするなどしたため、園児ががんばる姿が多く見られ、大きく成果を上げたと考える。しかし、評価委員（保護者）からは、以前は縄跳びや逆上がりなど全員できるようにさせ卒業させていたため、運動の充実を図ってほしいとの指摘を受けた。また、小学校の集団登校時に他園の子どもより歩く速度が遅いという指摘も受けたため体力の向上を図りたい。</p> <p>○「思いやりのある子」については、ひよこ組の存在やマーチングなどの縦割り活動により優しく声を掛け合ったり、思いやったりする光景が随所に見られるなど、保育者の働き掛けが成果をあげている。</p> <p>○「あいさつのできる子」については、集団での挨拶は申し分ないが、個々を見るとまだまだ課題が大きい。今後の課題だと認識している。</p> <p>▽昨年度高評価を得た英語が、本年度はやや取り組みが低調であったことは大いに反省すべきである。保護者や子どもの期待やニーズも大きく本園の特色でもあり、今後の改善を図っていきたい。評価委員（保護者）からもマリアン先生のおかげで英語が好きになったため、今後もサイバードリームを含めて充実を図ってほしいと指摘を受けた。</p> <p>○2歳児&満3歳児保育が2年目となったが、49名（昨年度28名）と大幅に増えた。さらに来年度は68名となり3クラスになる予定である。保護者のニーズに合った保育を提供していることの評価だと考えている。そのため新年少児の入園者数も久しぶりに90名を超えるなど園児獲得に好影響をもたらしている。</p> <p>▽評価委員から、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの対応を考えると、330人を超える大きな幼稚園であるからこそ、保護者が安心するためにも、保育者の負担を軽減するためにも養護教諭の配置が望まれると指摘された。</p>